

主題名	生命の尊重	内容項目	3 - (2)
資料名	妹に 中学道徳2 明日をひらく (東京書籍)		
ねらい	かけがえのない自他の生命の尊さを理解し、よろこびと感謝の気持ちを持って生きようとする心情を育てる。		
展開	○自分が生まれたときの様子について、発表しよう。 ○「妹に」を読んでもっとも強く感じた部分はどこだろう。また、それはどうしてだろう。 ◎「わたし」をはじめとする、家族の妹への言動には、妹の誕生に対するどのような思いが込められているのだろうか。		

わが子の誕生の際の喜びや不安、苦しみなどが率直に綴られており、道徳の時間に積極的に関わっていかうとする保護者の姿勢が見られた。

## 実践2 保護者参加型授業

PTA総会や学校公開などの機会におこなわれる授業参観では、すべての学級で道徳の授業を公開する。また、保護者には授業に参加してもらうことで、道徳教育への関心を高めてもらう。

主題名	理想の実現	内容項目	1 - (4)
資料名	心訓 (福沢諭吉)		
ねらい	自分の価値観を見つめ、他者との価値観の違いから、今後の価値観の高揚を図ろうとする心情を養う。		
展開	○楽しいことは何だろう。「一番」といったら何を選ぶだろう。 ○今日は「世の中で一番」を考えます。 ◎自分の短冊を発表しましょう。 ○残り6つの中から自由に2つを選んで短冊に記入し黒板にはる。 ○ワークシートの下段にあらためて記入する。 ○福沢諭吉の心訓のプリントを見る。		

- 昨年度2年生、役割と責任についての授業では、はじめに文化祭の振り返りを行なった。導入で、保護者から文化祭の感想を述べてもらい、生徒一人一人がどんな役割を果たしていたのかを確認した。保護者は、文化祭を肯定的に評価し、生徒の自信を引き出すようにしていた。
- 今年度2年生、理想の実現の授業。保護者も生徒もともに考え、発表する。それぞれの思いを交流することによって、視野を広げることができる。また普段身近に接している家族の新たな一面を発見することで、相互の理解を深めることができる。

## 実践3 学校だより・学級だよりの活用

道徳の授業の意義やねらい、実践の内容を生徒が振り返るだけでなく、保護者にも理解してもらうため、学校だよりや学級だよりを発行・活用している。「道徳だより」といったものを発行するのではなく、通常の広報活動の一部とすることによって、道徳教育を特別なものではなく日常のものとするができる。

The image shows a page from a school newsletter titled "結ぶだより" (Tying Together), issue No. 30, dated December 12, 2015. The page is divided into two main sections. The top section is titled "道徳の授業は？" (Moral Education Lesson?) and discusses the impact of moral education on students' lives. The bottom section is titled "紹介します" (Introduction) and introduces a family's perspective on their child's education.

**道徳の授業は？**  
 ○生徒の道徳性への影響は？  
 生徒の人格形成の第一義は家庭にありませぬ。生徒達は生まれから今日まで保護者や家庭での絶大な教育を受けています。そして、集団で学び合う学校教育の果たす役割も大きいのです。また、地域の人々からの指導、そして、今日ではテレビやインターネット等からの情報からも影響を受けています。  
 □道徳教育は学校生活のあらゆる場面で口少し専門的になつて恐縮ですが、学校では「道徳教育」と「道徳の授業」を分けています。(勿論、内容のねらいは同じですが)道徳教育は、人が係わり合い、学び合う全ての場面で、国語の時間でも、数学の時間でも当然行なっています。学級活動や総合的な学習の時間でも同じです。また、朝の会や帰りの会、学校通信、ライブでも機会を逃さず行なっています。  
 ☆道徳の授業は☆  
 各学年週一時間の授業を行なっています。今年度、学校としても特にその指導力の向上を目指して取り組んでいます。毎時間ねらいを一つに絞って、(中学校では道徳性を育てる内容項目が二十三あります)そして、複数の教師が参観し、授業後、整理会を持っています。  
 授業では、例えば、命は大切だということを教えるだけではありません。生徒達が自ら命は大切だと気づき、自覚を深めることをねらっています。生徒がどう感じているかは、一人一人の経験や考え方で違いがあります。どれかだけが正しいというのはありません。個々がどのように感じ、考えたかを話し合い、お互いの考えを深く合せていくことがねらいです。  
 『今日の道徳は何だった？』  
 家庭では様々な会話の中で人間としての生き方についても話し合われていると思います。テレビのドラマを見た後の会話、身近な話題についての会話、そして、お願ひしたいのは学校での道徳の時間について「今日の道徳は何だった？」と一語聞いているだけで、ややもすると会話にくいところもあると思いますが、そのきっかけにしてほしいのです。  
 先週の二年生の道徳の授業は「家族」に決まりました。そこで、朗読された文章を紹介しよう。

**紹介します。**  
 家庭は、一方では人を育て育てる場所、成長させる場所、安らぎの場所。しかし、もう一方では、つなりの深さ、人を苦しめ、ゆがめる場所もある。他人だった、そんなことはないのに、家庭からこそ、  
 思いがあり、願ひがあり、愛があるからそこに「ゆがみ」が生じる。他人だった、絶対にはんないものには、  
 親子は、  
 父子の第一の楽しみとして、  
 父と母がともに存在で、  
 兄弟もつつがなくすしている。  
 ...  
 でも、これは、だれにとってもいつまでも続くものではない。  
 早いかなはあたたかきとも、  
 居ることがあたりまえではない。家庭、いま、も一度、  
 その思い、その願い、  
 それぞれの愛をしっかりと受け止めよう、  
 そして、自分から愛を、注いでみよう。

## ② 保護者とともに創る活動

道徳教育をより効果あるものにするためには、学校行事等を通じて日ごろから学校と家庭とが交流し、協力体制を充実させていくことが不可欠である。また一つ一つの行事等を道徳教育の視点でとらえなおすことで、活動がより豊かなものとなる。



文化祭のステージ設営  
保護者の協力なしでは、絶対にできません。  
作業は夜9時を回ります。

### 1学年通信

初めての道徳で授業参観

第17号  
09年4月23日(木) 発行  
鶴川中 柿平 哲夫 道浦 浩幸

『三六五十四回分のありがとう』を読みながら、「家族」について考えた。  
佐江子さんはなくなりましたが、確かに家族の一員であり続けている。佐江子さんと佐江子さんの家族をつなぐ「ありがとう」という言葉。みんなはどのように受け止めたのだろう。

➡一言書かせて！(生徒編)  
味付けがまずい。あまり心配をしないで。文句を言わないで。化粧しすぎて香水くさい。電話になると声変わる。なまいき。寝ろ。小遣いを上げてほしい。百円でも。いちいちうるさい。味付け薄い。小遣いくれ〜。気を使わず。いちいちうるさい。

➡一言！(保護者編)  
もう少し早く寝て、朝起きられるように。小さなことにくよくよするな。ちよつと細かすぎ。初めから「出ない〜」「ムリ〜」と言わないで。焦くたくましく、ある時はずるく(社会で生きていく時は大切なこと)。宵飯を伸ばす。恥ずかしがらず挨拶や返事をする。人に優しく。ちゃんと話を聞き、親に伝えてほしい。人の意見に感わず、自分の言いたいことを遠慮せずに言う。玄関で靴を脱ぐ位置が遠い。家の手伝いをして〜。洗濯干し。茶碗とおかず運び等。先もって、行動をテキパキしてほしい。食べ物の好き嫌が多い。最近、反抗期？親離れ？でも甘えん坊。

家族とほんごものどう(生徒編)  
・宝物！世界に一つしかない！いつも一緒にいて励ましてくれる存在？！つらい時こそそばにいてくれる心が安らぐ。・大切！家族は大事にしたい。家族とは1人1人が役割があり、1人でも欠けるとバランスが悪くなり、ダメになるんだなあ、と思いました。・宝物のような存在。・かけがえのない存在で、1人でもいなくなったらバランスが崩れると思いました。・大事な時に支えになってくれる存在。・悩みやいろいろなことを打ち明けられる最高の相談者。・一緒にテレビを見る人。・かけがえのないすぐ近く大切な人。一緒に話したりする人。・産みの親。・育てくれた大切な人。・みんなで一つみたいな感じのもの。・大切な宝物。・宝物・お金よりなにより大切だと思う。お母さんやお父さんに感謝をしたいな。

家族とほんごものどう(保護者編)  
・助け合うこと。親も子もお互いに「思いやり」、「ありがとう」と言い合える関係であること。・そこにいて当たり前で、絶対必要なもの。・互いに助け合いできるような家族にしたい。・みんなで支えあっていると思います。支えあっているから幸甚。誰一人欠けてもさみしい。・世の中で何ものにもかえがたい、世界に二つとないもの。家族があつてこそ「自分」がある。一番大切にしたいもの。・1人1人が奮力して生活していくことが出来るようにしていくこと。・かけがえのないもの。大切です。・信頼と愛。でも口にしなないと伝わらないことが多い。・1人でも欠けるといけない存在。・みんながそろってこそいいものです。

○「ありがとうの重み」 生活ノートにこんな感想が載っていた。『ありがとうの重みを感じました。』ありがとうには「重み」がある。自分は、そんな「重みのあるありがとう」を言えているのだろうか。自分は、そんな「重みのあるありがとう」に気づいているのだろうか。授業の時もいろいろ考えさせられたけど、この感想にも考えさせられました。

## 実践1 PTAによる活動

3年前、本校PTAは、学校とともに生徒を育成するため、積極的に学校行事にかかわっていきこうという方針を定めた。この方針の下、「参観するPTAから参加するPTAへ」というスローガンを掲げた。仕事や実社会について語り合うシンポジウム「先輩に聞く会」の開催はその一例である。保護者2人に本校OB1人を加えた計3人で、社会人としての心構えや仕事への思い、中学校時代の思い出などを語ってもらった。フロアーの生徒からはたくさんの質問が出されて有意義な会となった。このように保護者が参加することで、生徒の意識に高まりが見られる。

### ア) 体育祭・文化祭

体育祭はPTA競技が生徒の対抗得点にからみ、生徒対PTAの綱引きも楽しみの一つとなっている。文化祭ではステージ設営を保護者が夜間数日かけて行う。その意義を踏まえての文化祭活動が展開される。バザーや食堂も保護者と生徒の協力で行う。



体育祭の綱引き 生徒 vs. 保護者  
勝利した団が保護者と対戦。  
好勝負が繰り広げられます。



文化祭での食堂  
保護者が企画・運営を  
生徒は準備・お手伝いをします。